

今年後援会会員  
315名  
(目標1000名)

# 「あゆみ」、夢の実現に向けて

長い開夢に描いた「自分たちの園舎」。その夢が実現に向けて大きく動き始めています

あゆみ保育園は1978年子どもを中心に親と保育士とで運営する共同保育園としてスタートしました。子どもが仲間とともに成長していきける保育園、親が安心して働ける保育園をめざし、多くの方から信頼され支えられてきました。

この4月1日からは社会福祉法人たまたごと統合して保育園の認可化を目指すとともに、障がいを持つ人や高齢者も含めた総合的な福祉活動の一環としての保育園に取り組みんでいきます。

統合に向けた話し合いの過程で、たまたご会が就労支援の施設として購入を検討していた旧佐々木外科病院(與市役所の隣)の建物の、1階2階部分を保育園に充てることが決まりました。ここにこおひさま(おひさま児童デイサービス)や学童クラブも一緒に入ることになり、建物は、総合的な社会福祉のセンターという構想で話が進んでいます。

建物購入の借入金とは別に、園舎政策には保育所・お

ひさま部分だけで4000万円かかります。政策には、あゆみがこれまで大切にしていた保育を続けるために希望や意見を大幅に取り入れてもらい、遊びや生活の空間はもとより、トイレやシャワーなどの設備も行き届いたものになっていきます。屋上や前庭の園庭は広くはないけど、近くに中央公園を控え、これまで通りあゆみっ子のお散歩姿が見られるはずです。

保育園の認可はまだですが、これまで壁となっていた土地・園舎の自己所有という条件はクリアでき、認可に向けても期待が高まります。これまでも皆様のご助力で財政危機を何度も乗り越えてきましたが、このたびの「自分たちの園舎」の夢を絶対に実現させたいと、皆様にご支援をお願いする次第です。

設立以来ずっと目指してきた保育の実現に向かって、あゆみは今後も共同の力で歩んでいきます。これからは、こおひさまとあゆみを見守ってください。よろしくお願いいたします。

NPO法人あゆみ会理事長  
佐々木さつみ

3月1日から

「社会福祉法人たまたご会 ヘルパーステーションさんぽ」

4月1日から

「社会福祉法人たまたご会 あゆみ保育園 あゆみ学童クラブ・児童発達支援 放課後等児童デイサービス」にこおひさま・発達相談支援おひさま

になります、どうぞよろしく。

今年度は13名の園児たちがあゆみ共同保育園を巣立っていきました。一人ひとり個性豊かで自分をしっかりもっている子どもたち。トラブルも多くありましたが、話し合っ解決してきました。うれし涙も悔し涙も流しました。おかげで、活気のある、明るくて楽しいクラスだったと思います。在園中、さまざまなりくみ・経験をしましたが、決してあきらめることなく励ましあひながら、13人全員がやりきりました。

卒園式では、一部の卒園発表で竹馬に乗って入場、初めは乗れなかった竹馬も一番高い位置まで上げることができるようになりました。小さいときからやり続けてきたリズムは、側転の膝がよく伸びるようになり、自分の身体をコントロールすることができるようになりました。こま回し、けん玉でもしかめ2番まで、荒馬では勇壮に駆け回りました。竹踊りはお父さん・お母さんもいっしょに。竹馬とけん玉はできるようになるまでにずいぶんと時間がかかりましたが、誰一人途中で投げ出すことなく粘り強くがんばりました。

第二部では、卒園証書授の後、「巣立ちのときを迎えて」卒園児たちの歌や思い出の言葉がありましたが、この歌声がとてもきれいで聞く人の心に響くものでした。

これから卒園児たちは、7つの小学校に分れていきますが、新しい場所でまた新しい仲間を作り、元気・勇気・やさしさをもって笑顔いっぱい的一年生になることを願っています。

## テーマ「大空にとびたう なかまとともに」 第26回 卒園式

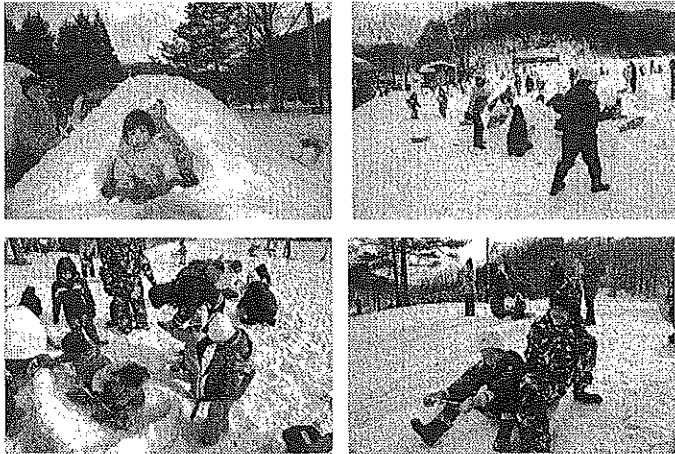




一昨年のおやじの会の飲み会で「子どもたちに雪あそびを体験させたい」ということが話題になり、そこはおやじの会の出番です、とばかりにお父さんたちがいろいろ相談して企画してくれました。(影でお母さんたちの後押しもあったようですが)

一すごく楽しかった！一

子どもたちはもちろん大人たちもそり遊びに夢中になり、急斜面を何回も何回も飽きることなくすべっていました。「チョー楽しい！」と言われたお母さんの顔が印象に残ります。日頃のストレス発散に大いに役立ったようです。小さいかまくらや雪だるまも作りました。かまくらづくりは子どもより大人たちが必死になりました。参加者は大人46名、子ども47名で、保育園から貸し切りバス2台でいきました。「来年も行きたい！」という声ですでに上がっていました。

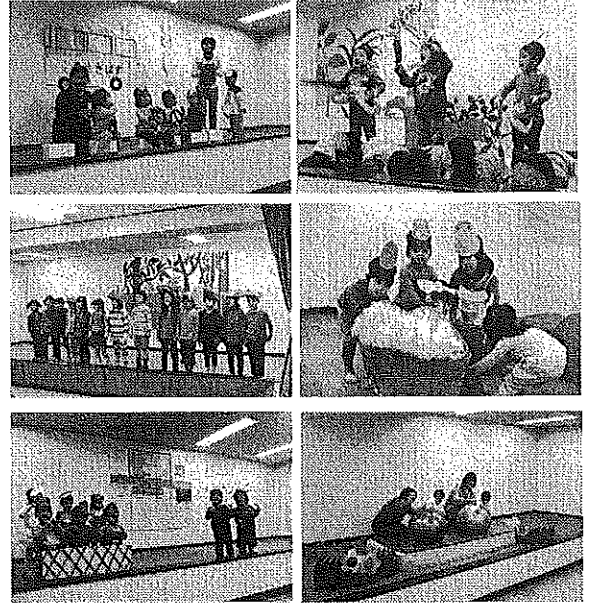


一テーマ 「友達といっしょに楽しく表現しよう」一

一年間の成長発達を、表現活動の中に観ていただく生活発表会がおこなわれました。

毎年このことながら、一年の終盤のこの時期になりますと、各クラスとも生活に落ち着きを見せ、子どもたちはいかにも自分が主人公という自信に満ち溢れた表情をするようになります。特に、保育園生活を積み重ねてきた年長児は、「あゆみで最後の発表会」ということを意識して、みんなで力を合わせていい劇を作りたい、きれいな合奏にしたい、という強い思いが伝わってくる発表でした。

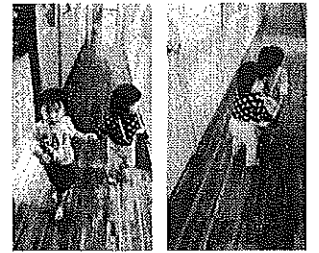
毎年ながら、保護者の出し物には子どもたちも大喜びしました。



1・2才児(大きいこりす・うさぎぐみ) 2月22日  
「グループでお当番してるよ」

あゆみ ねんじやくちゅう

- クラスで順番に当番活動をしています。当番さんは、ふきんを給食室に取りに行つて、机を拭いて、友達にスプーンを配る仕事をします。この日はみかんグループが中くん、りんごグループがちゃんでした。当番がやりたい中くんは、まだ入園して間もないちゃんの手を引いて給食室へ連れて行ってくれました。そして、二人で仲良くよいしょよいしょとふきんの入ったバケツをもって帰ってきました。
- 小さくても、友達の役に立つ当番の仕事が大好きで、自分の順番を楽しみにしている子もいますが、まだよくわからなくてやりたい要求の持てない子もいます。また、うさぎぐみは2才を超え、自分の番でなくても、当番表をめぐって「あしたね」と言われると待てるようになりましたが、小さいこりすぐみはまだ待てなくて、やりたいと大泣きする子もいます。
- みんなが「当番をしたい」という要求を持ち、必ず明日はできるという見通しと気持ちの切り替えができるようになっていってほしいと思っています。



「あゆみと私」 向田小展

一あゆみで育ててもらった力一  
私があゆみ保育園を退職して、早いもので7年になります。保育士として15年勤務の中で、結婚・出産・入園・卒園を経験しました。私にとつてのあゆみは、保育士としての土台を築き、成長させてもらった。そして我が子3人を育ててもらった大切な場所です。

長女有沙は、この度広島大学に合格し、春から1人暮らしを始めることになりました。小さい頃から男の子のように活発で、負けずきらいで諦めない。そんな有沙は、高校ではハンドボール部に入りました。毎日の厳しい練習にヘトヘトになりながらも、部活の帰りには塾へ通い、帰ってから夜遅くまで勉強。怪我をしていてもまわりに迷惑がかかるからと、内緒で休まず部活に。本当に3年間よく頑張ったと親としても感心するほどです。学校でも部活でも、相談を受けたら、まとめたり、頼られる存在になっています。

長男充希は、小学校から続いているハンドボールをするため、ずっと入りたかった高校に入学し、この春2年になります。口下手なところは変わりませんが、強いチームになるためにはどうあるべきか、という自分の考えをしっかりと持ち、争いを嫌い、チームワークを第1に考える子になりました。中学で選ばれていた県選抜メンバーに高校でも選ばれるよう、毎日頑張っています。ハンドのことは一生懸命なのですが、勉強が二の次になるのがたまにキズ...

次女朱里は3月生まれで、いつも皆の後ろからついていき、なかなか自分の思いを言い出しにくい子でした。しかし苦手なことに対しては、コツコツと頑張る子で、小学校の先生からは、「きつと中学生で伸びますよ」と言われ、半信半疑でした。中2になり担任の先生から「クラスの中では、はつきり意見を言ってみよう」と言われ、半信半疑で、「きつと中学生で伸びますよ」と言われた時にはびくつきり。文化発表会では、ステージに立ち英語暗唱のスピーチをしたのにも驚きました。成績も小学校に比べると随分上がり、背も伸びました。(笑い) いやいや中学3年生になります。

我が子3人を見てみると、あきらめずやり抜く力や、保育園当時リーダーでなくても、まわりのことを考えまわっていき力自然と身につく、それが自然にできていくんだなあと思えています。これも、いつも子供たちに寄り添い、大切な力を育ててくださったあゆみの先生方のおかげだと感謝しています。まだまだ心配なことも多々ありますが、あゆみで育ててもらった力を財産に、頑張りたいと思います。